



議員 進 高崎 明 党出 戸市選出 一括方式

県都水戸を中心とする 県央地域の振興策

議員 県都水戸が文化・歴史的蓄積と新プロジェクトを活用し、中心部から交流人口拡大を推進することが、県央地域振興のため必要と考える。水戸を中心とした県央地域振興策にどう取り組むのか。



議員 達也 磯崎 いばらき自民党 いたちなか市選出 一括方式

さらなる外国クルーズ船の 寄港誘致

議員 現状に満足することなく、ダイヤモンドプリンセス級の大型クルーズ船の誘致を目標に、知事をはじめ、さらなる外国クルーズ船の寄港誘致に力を注いでほしいが、ハード面の常陸那珂港区の整備と併せ、今後どう取り組むのか。



寄港が決定した「ウエステルダム」

アレルギー疾患対策

議員 国は、平成二十九年に、法に基づきアレルギー疾患対策の基本方針を策定した。県としてのアレルギー疾患対策への取り組みは、保健福祉部長 アレルギー疾患医療拠点病院として筑波大学附属病院を指定し、対策に関わる医師や団体などからなる連絡協議会も設置した。今後、診療ネットワーク促進、人材育成、普及啓発、相談体制強化などを推進していく。

児童虐待 防止対策、国民健康 保険制度 の適正な 運営など (ほかに、 伊チョウと県立歴史館(水戸市)



伊チョウと県立歴史館(水戸市)

犬猫殺処分ゼロを目指した 新しい取り組み

議員 高い評価を受ける「命の花プロジェクト」※を、国体の「花いっぱい運動」と連携して茨城発の取り組みとして全国へつなぐなど、殺処分ゼロに向けたあらゆる方策に挑戦してほしいが、所見は、知事 「命の花プロジェクト」に賛同する団体などの自主的な活動への協力を検討していく。動物愛護管理施策のあり方検討委員会の意見を踏まえ、効果的な施策の検討を進める。

議員 市町村の体制強化こそが、県全体の防災力向上に不可欠であると考え。大規模災害時の被災市町村の体制の確保に向けて、県は、今後どのように取り組むのか。



議員 智男 飯田 自民党 県政クラブ 常総市選出 一括方式

大規模災害時の被災市町村の 体制支援

議員 県は、全国に先駆けて、「自転車活用推進計画」の策定に取り組んでいる。今後の方向性は、政策企画部長 サイクルツーリズムの推進に向けた方策をはじめ、自転車ネットワークづくりや交通安全対策、健康増進などにつながる方策を検討する。併せて、りんごロードのナショナルサイクルルート認定に向けた方策も検討し、年度内を目途に計画を策定する。



被災地支援に出発する職員

西部メディカルセンターの今後

議員 十月に開院する西部メディカルセンターに、今後どのような役割を期待するのか。また、遠隔医療に必要な体制の整備や機器の導入を含め、県として今後どのように支援を行っていくのか。

保健福祉部長 新たに設置される救急科を中心に、地域内の急性期医療を担うことなどが期待される。また、遠隔医療については、県北地域での先行事業の効果を検証し、他地域への展開も検討していく。



10月に開院した西部メディカルセンター(筑西市)



議員 拓也 岡田 いばらき自民党 高萩市選出 一括方式

フィルムコミッションの活用

議員 撮影誘致に当たっては、受け入れ地域の要望に耳を傾け、地域のPRにも還元できるような取り組みも大切と考える。今後の撮影誘致作品の活用策と本県フィルムコミッションの役割は、営業戦略部長 誘致作品の著作物の二次利用について県内共通のルールづくりを市町村と協議していくほか、受け入れ地域の思いが伝わるよう、県自ら関係先を訪問し、地域のPRや観光誘客につながる取り組みの提案も行っていく。



議員 高志 上野 自民党 共産市選出 日取市選出 一括方式

精神障害者の医療費助成

議員 今定例会には、茨城県精神保健福祉会連合会から二万人以上の署名を添えた、マル福の拡充などに関する請願が提出されている。精神障害者保健福祉手帳二級保持者にまで、医療費助成を拡充すべきであるが、所見は、知事 手帳二級保持者を対象とすることは、公平性の観点から現時点での実施は考えていない。まずは来年四月から手帳一級保持者を対象に加え、重度の精神障害者が助成を受けられるよう取り組む。

特別支援学校における 就労支援の取り組み

議員 障がい者の雇用促進には、特別支援学校とハローワークの連携、学校と企業をつなぐ人材配置などが必要と考える。特別支援学校の今後の就労支援の取り組みは、教育長 就職相談の取り組みを強化し、ハローワーク主催の事業所向け学校見学会の拡大に向けて働き掛けのほか、卒業後の継続支援のため、障害者就業・生活支援センターとの連携を密にしていきたい。

北地域の将来 像と県北芸術 祭の在り方、 森林環境に対 する県民意識 の醸成なども (ほかに、県 内における撮影風景



県内における撮影風景

取手いじめ自死への対応

議員 県教育委員会は、取手市自死事件での対応について、自らの誤りを認めるべきである。そして、一つ一つ、一回一回の助言支援を検討すべきと考えるが、所見は、教育長 一人の人間が亡くなったことは、本当に大変なことで真摯に受け止めている。一つ一つの対応については、その都度最善を尽くし、指導助言をしてきたつもりだが、今後さらに考えていきたい。

東海第二原発の再稼働 問題、賃金 格差と都市 部への人材 流出なども (ほかに、 県が交付する精神障害者保健福祉手帳



県が交付する精神障害者保健福祉手帳

※【命の花プロジェクト】…青森県立三本木農業高等学校の生徒が始めた、殺処分された犬や猫の骨を砕いて土に混ぜ、花を育てて、命の尊さと殺処分の現状を伝える活動。 ※【いばらき災害対応支援チーム】…災害対応の経験やノウハウを持った県や市町村の職員が、被災市町村の災害マネジメントを支援する本県独自の取り組み。